

第176号議案 製造の請負契約の締結について
(長崎原爆資料館展示更新実施設計・制作施工の請負)

目 次	ページ
プロポーザル提案書抜粋	
1 業務等の実施方針・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2 実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・	3～4
3 展示更新により目指す姿、提案・・・・・・・・	5
4 初来館者への配慮事項・・・・・・・・	6

※この資料の内容は受託候補者を選定するための提案書を抜粋したものであり、展示の設計内容が確定するわけではありません。今後、長崎原爆資料館運営審議会や市議会等からの意見をいただきながら、具体的な展示内容について実施設計を進めていきます。

原爆被爆対策部
令和 7 年 9 月

1 業務等の実施方針

業務の目的

「原爆の被害を遠い昔の出来事ではなく、今の自分にも起こりうることとして受け止め、自ら平和を考え、行動することにつながる資料館」を実現する

業務内容についての見解

一貫通貫で推進

設計と制作施工業務を一貫通貫で推進することで、設計段階から、制作施工、運営引き渡しまで、先の業務をトータルに見越して業務対応を行う。

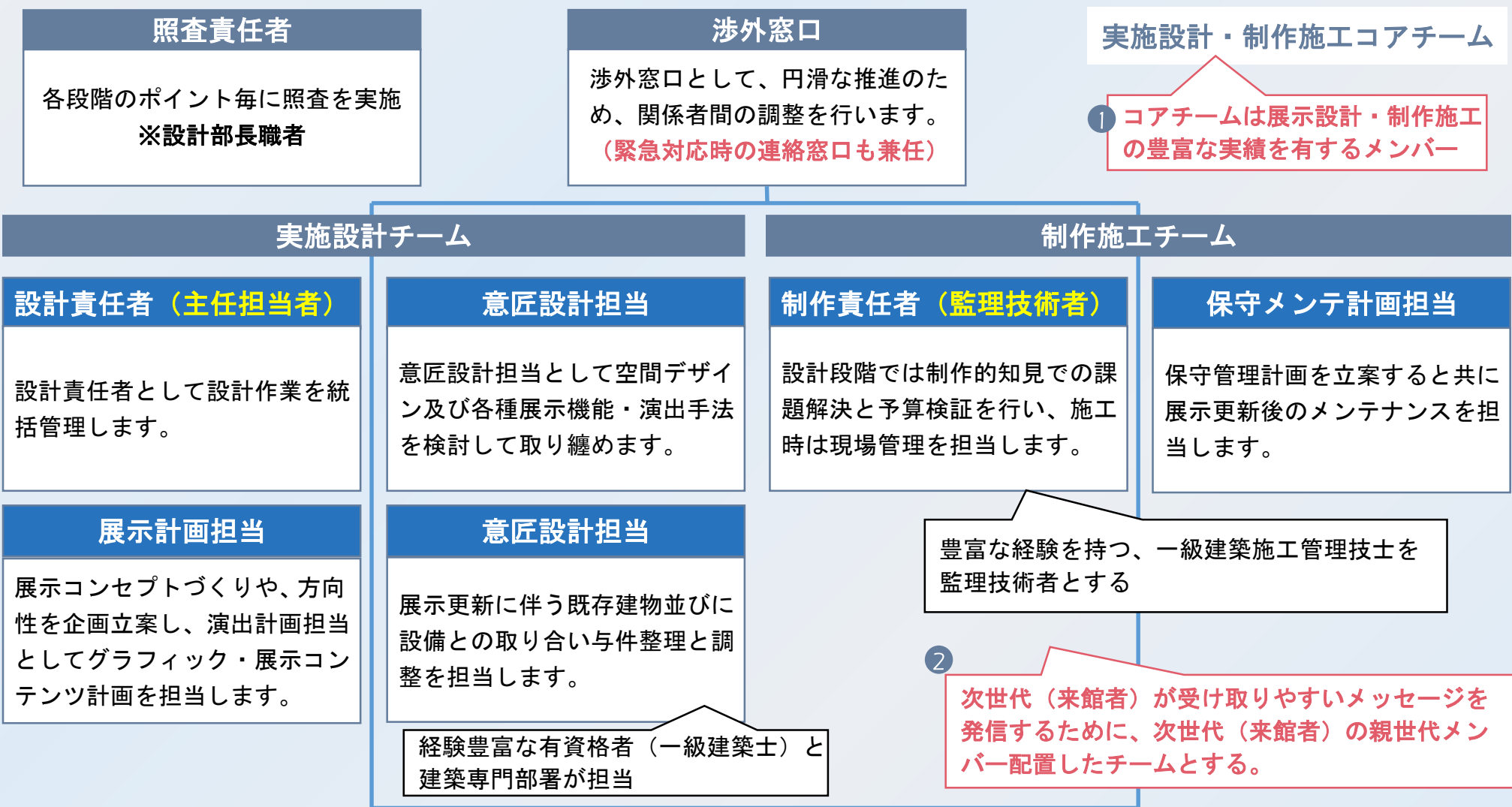
コミュニケーションと的確な支援

設計業務にあたっては、発注者との情報共有や相互提案などの連携作業を積極的に行い、柔軟な対応に努める。運営審議会関連業務では、合意形成に向けて多面的な理解と均衡のとれた視点で業務に取組み、段階に応じた的確な発注者支援を行う。

安全に配慮した執務並行改修

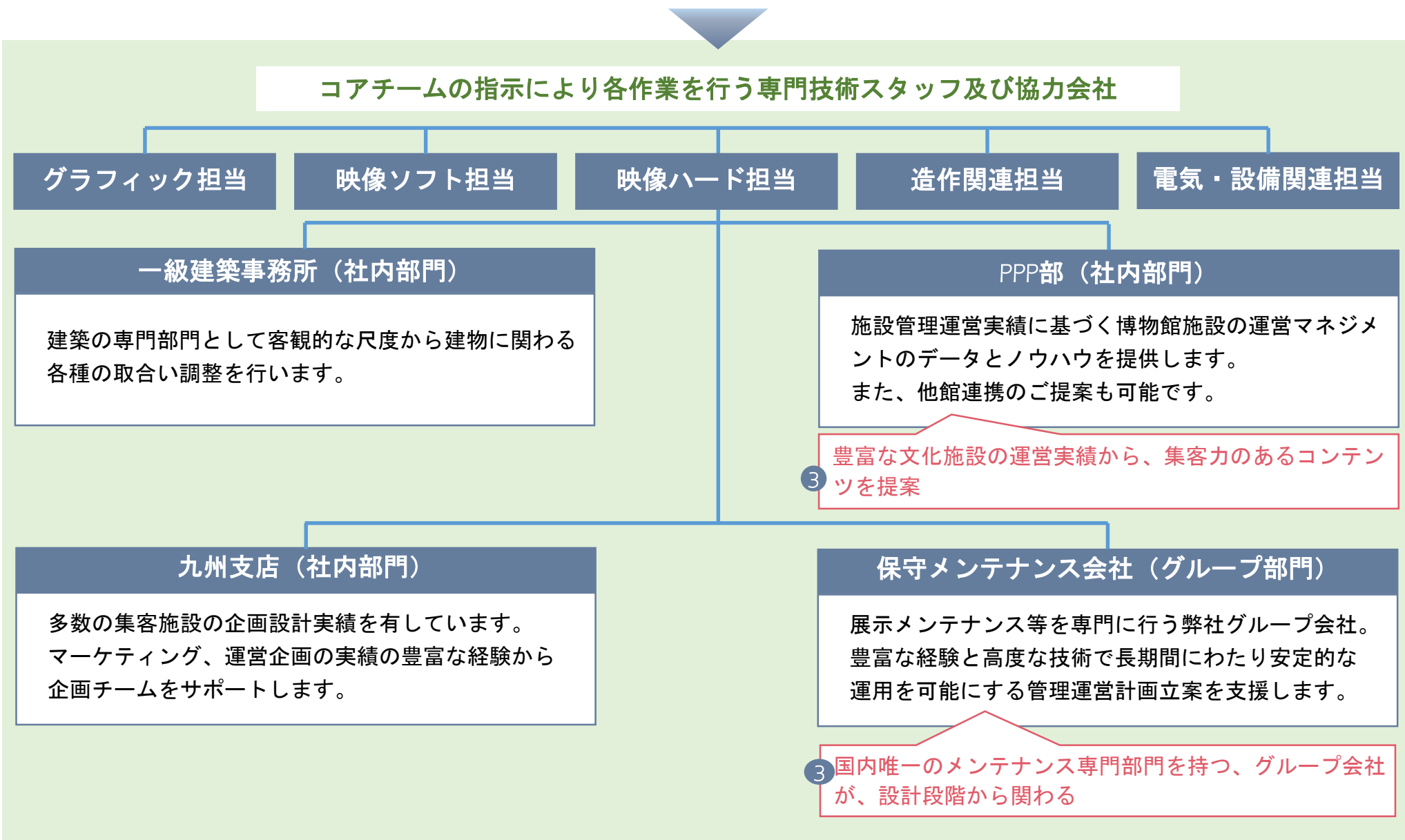
制作施工業務にあたっては、開館しながらの夜間工事（執務並行改修）となるため、来館者への安全配慮と、工事中の安全配慮を総合的に留意し、確実な施工推進を行う。加えて、全行程を通じて物価高騰や人手不足の状況を見定め、柔軟に対応する。

2 実施体制図①



コアチームの指示により各作業を行う専門技術スタッフ及び協力会社

2 実施体制図②



3 展示更新により目指す姿、提案

展示更新によって長崎原爆資料館の目指す姿

「原爆の被害を遠い昔の出来事ではなく、今の自分にも起こりうることとして受け止め、自ら平和を考え、行動することにつながる資料館」

展示更新の基本的な考え方

館の基本理念や目的は変えず、時代の変化に応じて展示内容を更新する。

- ① 戦争から遠くなった世代に、戦争（核兵器）によって日常が壊されることを自分事として捉えてもらうことで、原爆の被害の実相や被爆者の苦しみと願いをわかりやすく伝える
- ② 誰もが今も核兵器のある世界に生きる当事者であると同時に、平和な未来をつくる当事者であることへの気づきにつなげる。
- ③ 一人ひとりが身近なところから平和について考え、行動するきっかけをつくる。

これらを実現するための
3つの提案

1

自分事化

自分につなげる デザイン

没入感や体験で興味をもち、世界の視点で広く、身近な視点から深く知ること、核と戦争の課題を自分の問題として意識させる

2

未来視点

未来に向けて発信する デザイン

自ら平和を考え、行動するために他者の想いや問いに触れ、自ら発信することで未来につなぐ

3

波及

館全体に波及する デザイン

蓄積してきた資源を活かし、既存エリアも含めて、館全体に魅力を波及させて館内を活性化させる

4 初来館者への配慮事項

- 初来館者を大きく3つに分類。指針、利用特性を分析し、相応しい学習機能を充実させます。
原爆遺構など、フィールドに誘う機能にも配慮します。

外国人観光客



世界的視点/多言語内容/案内への配慮

- 原爆投下に至る歴史を世界的視点で語る
世界の流れから見る日本の視点により海外の方にも原爆をめぐる歴史が実感できる。
- QR多言語解説のさらなる充実
各言語圏の外国人の特徴に配慮した翻訳で分かりやすさを向上。
- 多言語音声ガイド利用の案内
多言語音声ガイドがあることの視認性を高めて表示。

修学旅行生（小中高）



時間制限、効率的平和学習に配慮

- 見学サポートシートの制作
時間内に効率的に見学できるルート、見学、調べポイントを示したシートでサポート。

平和学習（小中高）

展示内容と学習テーマの連携に配慮

- 平和学習と連携した展示づくり
展示内容と学習テーマの連携に配慮しながら推進しつつ、館全体を有効活用できるようにする。

生涯学習（成人・大学生等）



知的満足と交流満足の両立に配慮

- 知的欲求、知的向上心に応える
情報メディアコーナーや映像端末の更新性を高め、コンテンツの深さ広がりを実感できる。
- 知的満足から交流満足へつなぐ
学ぶ側から発信する側へ、来館者の意識を高め、自然にステップアップしていける生涯学習のあり方をめざす。
- 長崎とつなぐ
原爆遺構等フィールドへ誘う。

初来館者に分かりやすいエンパシー・デザイン ※相手の立場や感情、ニーズを理解し、共感的に物事を行うデザイン手法。

じっくり読まなくても一目かでわる

インフォグラフィックの活用

図形やイラスト、効果的な配色等を活用し、視覚的に分かり易く直観的に理解しやすいデザイン。

世界の視点から分かり易く読み解く

世界との関わりの中で日本を理解する

日本を世界の他の国々との比較や関係の中で理解する視点は、学校教育の学びに効果的。パネルやシート類の構成等に活かす。

知的満足から行動・交流満足へと促す

Dコーナー未来に向けての発信に誘う

展示の中で情報メディアコーナーへの案内を充実。次世代と共に他者の想いに触れることで行動を促し自らの想いを発信してもらう。